

公益財団法人 大隅基礎科学創成財団

第4期（2020年度）事業報告

（2020年8月1日から2021年7月31日）

報告内容

I. 事業の実施状況

- | | |
|-------------------------|---|
| 1. 基礎研究の助成事業 | 2 |
| 2. 研究者と社会との新たな連携を構築する事業 | 3 |

II. 管理業務

- | | |
|------------------|---|
| 1. 財団の体制整備に関する事項 | 4 |
| 2. 理事会及び評議員会の開催 | 5 |
| 3. 選考委員会の開催 | 5 |
| 4. 寄付・会員の状況 | 6 |
| 5. 広報活動 | 6 |

公益財団法人 大隅基礎科学創成財団
第4期（2020年度）事業報告
（2020年8月1日から2021年7月31日）

当財団は、日本社会の科学基盤の発展に寄与することを目的として、2017年8月9日に一般財団法人大隅基礎科学創成財団として創設、2018年8月1日に公益財団法人に認定された。

第4期は前期に引き続き、基礎研究の助成事業及び研究者と社会との新たな連携構築事業の2つを柱として活動した。研究者と社会との新たな連携構築事業に関して、新たに微生物機能探究コンソーシアムを立ち上げ、収益事業として企業等の相談対応を開始した。そのために定款の変更を行った。創発セミナーは、新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン開催を中心として実施した。管理業務においても、理事会、評議員会はすべてオンライン開催とした。

第4期の事業の実施状況、及び管理業務について報告する。

I. 事業の実施状況

1. 基礎研究の助成事業

第4期研究助成は、2020年5月6日～6月30日の応募期間に公募を行った。基礎科学（一般）124件、基礎科学（酵母）28件の応募があり、選考委員による書類審査を行い、選考委員会を開催して厳正に審査し採択候補を選定した。最終的な採択課題は、2020年9月23日の理事会で承認された。第4期までの助成件数と助成金額を表1に示す。第4期の基礎科学（一般）及び基礎科学（酵母）の研究助成対象者と研究課題をそれぞれ表2-1、表2-2に示す。

表1. 研究助成の件数と金額 （金額単位：千円）

	基礎科学（酵母）		基礎科学（一般）		計	
	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額
第1期	4	10,000	-	-	4	10,000
第2期	3	12,000	9	32,700	12	44,700
第3期	3	12,000	8	48,000	11	60,000
第4期	3	12,000	9	48,000	12	60,000
計	13	46,000	26	128,700	39	174,700

表2-1. 第4期 基礎科学（一般）研究助成対象者及び研究課題 （氏名の五十音順）

氏名	所属	研究課題
河野 憲二	兵庫県立大学	真核生物 eEF2 に唯一存在する修飾アミノ酸ジフタミドの生理的役割の解明
小牧 伸一郎	奈良先端科学技術大学院大学	ゲノム倍加植物の誕生に関わる MCC 複合体の抑制機構
酒井 達也	新潟大学	植物の光屈性誘導機構の解明
高岡 勝吉	徳島大学	哺乳類胚における発生休止の分子メカニズム
西村 芳樹	京都大学	母性遺伝の基盤としてのオルガネラ DNA 複製分解機構を探る
星 元紀	お茶の水女子大学	刺胞動物における卵外被の構造と機能

堀 沙耶香	東京女子医科大学	逃避行動を最適化する原型回路の分子基盤の解析
宮成 悠介	金沢大学	転写反応の現場を理解する
山崎 正和	秋田大学	長年ベールに包まれた未知の PCP 制御機構の解明

表 2-2. 第 4 期 基礎科学（酵母）研究助成対象者及び研究課題（氏名の五十音順）

氏名	所属	研究課題
佐藤 政充	早稲田大学	タイムラプス・シングルセル発現解析から見えてきた細胞の休眠と目覚めの分子機構
細見 昭	信州大学	出芽酵母における小胞体内へのリーダーレスタンパク質輸送
守屋 央朗	岡山大学	過剰発現が有利に働く遺伝子の体系的探索により理解する酵母の耐ストレス生理

2020 年 12 月 18 日に対面とオンラインとのハイブリッド形式にて研究助成贈呈式を行い、理事長より助成対象者に贈呈書が授与された。基礎科学（酵母）の助成対象者には、併せて大隅基礎科学創成財団酵母コンソーシアムフェローの称号が授与された。

第 5 期研究助成は、2021 年 5 月 6 日～6 月 30 日を応募期間として公募を行い、基礎科学（一般）152 件、基礎科学（酵母）31 件の応募を受け付け、選考を開始した。

2. 研究者と社会との新たな連携を構築する事業

(1) 創発セミナー

財団の活動に賛同する基礎研究者と企業の研究者等が自由に意見を交わし、基礎科学と産業界の新しい協力関係を構築する場として創発セミナーを年間 9 回開催した。新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮しオンライン開催としたが、2020 年 12 月の研究助成贈呈式及び 2021 年 5 月の酵母コンソーシアムは、会場に少人数参加とオンラインのハイブリッド形式にて開催した。

表 3. 2020 年度創発セミナー

回	日程	場所	テーマ	参加者
1	2020/9/23 (水)	オンライン	[アドバイザー会議] 研究開発における大学と企業の新しい連携の在り方	28 名(演者 2, アドバイザー 13, 研究者 10, 事務局 3)
2	2020/10/29 (木)	オンライン	微生物機能探究コンソーシアム立ち上げシンポジウム	73 名(演者 1, 研究者 30, 企業 37, 事務局 5)
3	2020/12/18 (金)	東工大&オンライン	[研究助成贈呈式] 講演：ミトコンドリアの多様性－基礎研究から創薬ターゲットまで	54 名(演者 1, 研究者 28, 企業 20, 事務局 5)
4	2021/1/29 (金)	オンライン	植物に学ぶ一巧妙な環境応答のしくみ	53 名(演者 2, 研究者 20, 企業 27, 事務局 4)
5	2021/2/26 (金)	オンライン	生物からみた環境問題と人類の未来	78 名(演者 2, 企業 58, 研究者 12, 事務局 6)
6	2021/3/23 (火)	オンライン	再生の不思議と応用の可能性	85 名(演者 2, 企業 62, 研究者 15, 事務局 6)
7	2021/4/23 (金)	オンライン	[アドバイザー会議] 基礎科学研究の推進における企業の役割	24 名(演者 1, アドバイザー 11, 研究者 8, 事務局 4)
8	2021/5/14 (金)	京大&オンライン	[酵母コンソーシアム] 細胞の環境適応戦略とその応用～酵母と温度の新たな関係～	89 名(演者 2, 研究者 31, 企業 51, 事務局 5)

9	2021/7/16 (金)	オンライン	[感謝の集い] ポストコロナに向けて	165名(演者5, 個人寄付者40, 企業65, 研究者50, 事務局5)
---	------------------	-------	-----------------------	---------------------------------------

(2) 市民講座

市民及び学生に基礎科学の面白さや大切さを理解してもらい、科学の振興を支援する文化を醸成すること及び地域社会への貢献を目的として開催を検討したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため今期開催は中止とし、次年度となる8月にウェビナー形式で開催する準備を進めた。

(3) 次世代を担う小中高生と研究者のふれ合いの集い

次世代を担う人材を育てるために、小中高生が最先端の科学に触れ、科学者と交流する場として、第4回 小中高生と最先端研究者とのふれ合いの集いを2021年3月27日(土)に広島県の5-Days こども文化科学館で開催した。講演会場では、聴講者を会場収容人員の半分(160名)に絞り、大隅良典理事長と広島大学の越智光夫学長が講演を行った。体験ブースでは14団体から出展があり、午前の部80名、午後の部80名が参加して科学体験を楽しんだ。

(4) 微生物機能探究コンソーシアム

アカデミアと企業が連携して微生物学の発展を図ることを目的として活動を行う微生物機能探究コンソーシアム(略称、微生物コンソーシアム)を2020年12月に立ち上げた。

趣旨に賛同する参加企業9社から企業会員21名、及び発起人研究者の3つのグループに所属するアカデミア会員19名が参加し、グループごとの定例会6回、全グループ合同で開催する全体会3回をオンラインで開催し、微生物学に関する研究紹介、話題提供をして議論を行った。

コンソーシアム運営に関する事項を審議するために、財団理事、グループリーダー及び企業からの委員、計11名で構成される運営委員会を置き、審議結果は財団の理事会に上申した。

(5) 企業等の課題解決に向けた相談対応

1件の相談対応を実施した。

企業より、当該企業の課題解決のために、アカデミアの知識、視点、考え方を提示してもらって議論を行いたい旨の申し入れがあり、適当な基礎研究者の紹介を行った。企業からの入金額から必要経費を除いた収支差額は、財団の公益事業に使用する。

II. 管理業務

1. 財団の体制に関する事項

研究者と社会との新たな連携構築事業における新たな活動の開始に向けて、定款第4条(事業)1項(2)に、以下の④、⑤、⑥を追加することについて内閣府に申請を行い、2020年12月2日に変更認定を受け、定款の変更登記を行った。

(2) 研究者と社会との新たな連携を構築する事業

- ① 企業経営者・研究者、大学等研究者との勉強会・交流会の開催
- ② 市民及び学生を対象とした基礎科学の普及啓発活動
- ③ 次世代を担う小・中・高生と研究者とのふれ合いの集いの開催
- ④ 企業等との連携による基礎科学における重要課題の研究の推進

- ⑤ 企業等の課題解決に向けた相談対応
- ⑥ 基礎科学の普及のための書籍、教科書等の発行

これにより、微生物学の発展を目的とする微生物機能探究コンソーシアムを新たに立ち上げ、企業の相談対応を収益事業として開始した。

第3回定時評議員会にて承認された2020年度事業報告及び計算書類等の定期提出書類、及び2021年7月20日開催の理事会にて承認された2021年度事業計画及び収支予算に基づき、事業計画に係る定期提出書類を内閣府に提出し、財団のホームページに掲載した。

2. 理事会及び評議員会の開催

(1) 第1回理事会（2020年9月23日）（オンライン開催）

- 第1号議案 第3期（2019年度）事業報告・計算書類の承認の件
- 第2号議案 第4期研究助成の決定の件
- 第3号議案 微生物機能探究コンソーシアム規程の承認の件
- 第4号議案 執行理事（常勤理事（微生物機能探究コンソーシアム担当））1名選定の件
- 第5号議案 小中高生と最先端研究者とのふれ合いの集いの謝金の件
- 第6号議案 第3回定時評議員会招集の決定の件

(2) 第3回定時評議員会（2020年10月21日）（オンライン開催）

- 第1号議案 第3期（2019年度）計算書類・事業報告の承認の件

(3) 第2回理事会（2020年12月8日）（オンライン開催）

- 第1号議案 微生物機能探究コンソーシアム規程の承認の件
- 第2号議案 第4期研究助成の決定の件
- 第3号議案 謝金規程の変更の件
- 第4号議案 定款の変更（案）を評議員会に諮る件

(4) 第1回臨時評議員会（2020年12月16日）（みなし決議）

- 第1号議案 事業の追加に伴う「定款」一部変更の件

(5) 第3回理事会（2021年7月20日）（オンライン開催）

- 第1号議案 謝金規程の変更の件
- 第2号議案 企業等の相談対応に関する規程の承認の件
- 第3号議案 第5期（2021年度）事業計画書及び収支予算書等の承認の件
- 第4号議案 資金運用の件

3. 選考委員会の開催

基礎科学（一般）

第1回選考委員会開催（2020年9月2日） オンライン開催

選考委員の書面審査の結果をもとに議論し、採択候補を一次選考。一次選考で絞られた候補者に各選考委員が再度評点を付けた。選考委員長が点数上位から採択候補と助成金額（案）を作成し、選考委員に意見を求めることとした。

メールにて合意取得（2020年9月14日）

選考委員長より採択候補と助成金額（案）を提示し、選考委員にメールにて意見を求めたところ、全員の合意が得られた。

基礎科学（酵母）

第1回選考委員会（2020年8月5日） オンライン開催

選考委員の書面審査の結果をもとに議論し、採択候補を一次選考

第2回選考委員会（2020年8月8日） オンライン開催

一次選考の結果をもとに議論し、採択候補と助成金額を決定。

4. 寄付・会員の状況

第4期は、個人、法人・団体からの寄付、及び法人会員年会費として総額111,453,369円を受領した。理事長との週次打合せにおいて事務局より収支の状況を報告した。

2021年7月31日現在の寄付、会員の状況は表4の通り。

表4. 寄付及び会費の状況

	個人	法人、団体寄付	法人、団体会費	計
第4期	12,893,369円 (327件)	45,460,000円 (21件)	35,100,000円 (法人会員25)	111,453,369円
			18,000,000円 (微生物コンソーシアム 会費9件)	

5. 広報活動

財団のホームページに財団の事業及び活動の紹介を適宜行い、2021年2月に財団の支援者に財団の活動の様子を知らせるニュースレターを送付した（705通）。

第5回研究助成の公募に関して関連26学会に連絡し、学会ホームページへの掲載及び学会からの案内送付を依頼した。研究助成の応募件数は増加している。

以上